

最近話題の「ホメオパシー療法」について

9月3日の地元新聞や全国紙に「保健室でホメオパシー、名護の中学養護教諭」というニュースが流れました。それによると5年前から保護者や校長、校医の了解を得ずに、民間療法「ホメオパシー」で使う「レメディー」と言う砂糖玉を、保健室で生徒に日常的に飲ませていたという事です。複数の生徒や卒業生は「頭痛や生理痛で保健室に行く」とレメディーは副作用がないが、普通の薬はダメ、熱が出た時も「家で飲みなさい」と渡されたと言っています。新型インフルエンザが流行した昨年も「インフルエンザを予防できるレメディー」を渡され、予防接種を受けなかった生徒もいるようです。

今回「ホメオパシー療法」が問題になったきっかけは、昨年10月に山口県で助産師にビタミンK2の代わりにホメオパシー療法の特殊な錠剤（レメディー）を投与された乳児が、ビタミンK欠乏性出血症で死亡した事件でした。その助産師は母子手帳に「ビタミンK投与」と嘘の記載をしていたことも判明しています。そして現在、訴訟問題になっているのです。

その後、日本学術会議は「ホメオパシーの治療効果は、科学的に明確に否定されている」というコメントを出し、日本医師会や日本医学会でも「ホメオパシーに頼り、通常の医療を受けずに亡くなった人がいるという被害が出ている」と指摘しています。

以前から私の外来でも母子手帳の予防接種欄が真っ白で、予防接種を全く受けていない乳幼児やアトピーでひどい湿疹があるにもかかわらずステロイド軟膏を拒否する「ホメオパシー信仰」の母親が何人かいま

した。その父親は当方と母親の意見の狭間において、どうしていいかわからないという態度でした。

私はかたくなに予防接種を拒否する母親が理解できず、一度「ホメオパシーの講演会」に行ったことがあります。そこでは日本ホメオパシー医学協会の創始者、油井虎子氏が「BCGを受けるとアトピーになる」とか「予防接種を受けると自閉症になる」とかで現代の医学を全く否定する発言がありました。私はその根拠を理解できずにはいましたが、熱弁をふるうため会場の受講者はその話に引き込まれている様子でした。まさしく洗脳されている状態です。私はこのホメオパシーが新興宗教のように広がった場合は、何か大きな問題が起こるだろうと予感したぐらいです。

現代医学は万能ではありません。癌で年間30万人も死亡しています。子ども達の自閉症など発達障がい児も完治させる良い治療方法はまだありません。もしホメオパシーが代替医療としてそれらに有効であれば何ら否定するものではありません。欧米では200年以上前に確立した医療体系であり、現在も引き続き行われている医療です。現代医学は「症状を抑える薬で治療する」考えですが、ホメオパシー医学は「症状を引き起こすものが、症状をいやす」という考えで、原因と考えられるものを何億倍にも希釈した薬（レメディー）で治療します。

今回、ホメオパシー療法を魔女狩り的に否定し除外するのではなく、これを機会に安全性、有効性、さらに医療経済性について国レベルで調査研究してもらいたいと思っています。 (たまなは)